

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動の中心である授業への欠席、遅刻を一層減らすこと、教員に校内、他校、異校種の公開授業情報を提供し、参観を促していくことが必要である。 交通事故、怠学傾向、心の問題などに対応するため、教職員・SC・家庭及び関係機関との連携を一層強めていくことが必要である。 就職難の状況下で、「総合的な学習の時間」における資格取得の向上への取り組みなど、進路支援の充実にも努めていくことが必要である。 	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>生徒の目的意識の高揚を図り、人間性の涵養・学力向上を核とする学校づくりを図る中で、進路実績の向上を目指す。</p> <p>(1)豊かな人間性と社会性を育む心の教育の充実 (2)基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 (3)家庭と地域社会との連携の強化 (4)教職員の資質向上と健康増進</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等
学習指導	○生徒が自己肯定感をもてるような授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業、参加している実感がもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケート実施 4:「はい」と「ややあてはまる」の計80%以上、 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	3	・理解しやすい授業、わかる授業を実施するための、日々教材研究に励んでいる。多くの先生は必ずしも生徒に理解してもらえないかを試行錯誤を繰り返しながら日々教壇に立っている。生徒が自己肯定感をもてる授業の工夫と改善も少しずつではあるが、前進しているように感じる。	能力差のある生徒達を対象に個別の対応や授業づくりに配慮されている。生徒の自己肯定感にまで発展させるため、授業のねらいを明確に示し、生徒の能力や理解・関心度に配慮した授業を行い、達成感や満足感が得られる授業を展開して欲しい。
	○教員相互の授業研究・公開授業の推進	・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究を進める。	4:3回授業参観し、授業研究に努める。 3:2回 “ ” 2:1回 “ ” 1:授業参観することはなかった。	3	・教員相互の授業研究も前向きに実施されている。公開授業を推進することで担当者各自がどの点は自分の授業はよく、どの点は工夫の余地があるかを見学しにこられた先生から直接聞くことができた。このような経験を繰り返すことで担当者各自の技術も前進していると感じている。	授業公開や授業研究を積極的に進めて欲しい。特に自他の授業アンケート結果を参考にし、定時制の生徒の実態に即した授業となるよう働きかけて欲しい。
生徒指導	○怠学傾向の見られる生徒への状況改善と予防を目指すアプローチの推進	・怠学傾向の見られる生徒について欠席・欠課・遅刻等の統計を活かしながら教務とも連携し指導を徹底させる。	4:統計の分析を各学期におこない、指導の徹底が図られた。 3:統計の分析を前・後期の2回実施し、指導の徹底がほぼ図られた。 2:統計の分析を年1回実施し、指導に生かされた。 1:指導が不十分であった。	4	・怠学傾向の強い生徒については担任、教科担当を中心にその都度本人に注意喚起をし、一定の限度を超えた者については教務課との連携をしながら保護者へ直接「文書」を発送している。しかしながら、自覚の足りない生徒、基本的な生活習慣が確立されていない家庭においては際立った改善が見られず、学校としての限界を感じている。	理解力、修学・就労意識、家庭環境に問題を抱える生徒が多数を占める中、本年度は退学者もなく、問題行動も最小限に抑えられているのには感心させられた。
	○スクールカウンセラー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒への対応を的確なものとする。また保護者との連絡を頻繁に行い、協力と相談を密にする。	4:校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3:校内における連携が深まり生徒への対応が実効した。 2:生徒への対応が図られた。 1:生徒への対応が十分には図られず、保護者の協力も望めなかった。	3	・個別の支援を要する生徒も在籍しており、本年度は様々な角度から生徒理解の方法を模索してきた。スクールカウンセラーとの協力および保護者への情報提供と連絡を含め、通常の学習以外での支援も実施してきた。特に障害を持つ生徒については、来年度以降も効果的な支援と指導を継続していく必要がある。	サポートを必要とする生徒について、情報交換、実態把握、教員研修、具体的な配慮やサポート等、定時制高校が抱える課題について他校に先駆けて行われている。引き続き、可能な支援について検討と実施をお願いする。
進路指導	○個々の生徒の進路支援の充実	・「総合的な学習の時間」を活用し、検定の合格を目指す。	4:生徒の70%が受検し60%以上の合格を出した。 3:生徒の70%が受検し、合格率60%以下であった。 2:生徒の半数以上が受検した。 1:生徒の40%未満しか受検しなかった。	3	・40名中28名が受検し、16名が合格した。昨年度の実験率が92.8%、今年度が70.0%で、昨年度と同様の結果は出なかった。合格率は48.7%から57.1%と上回っている。昨年度と比較して受検率が大幅に落ち込んだことの原因として資格に挑戦することの意義や目的意識が希薄であったことなどを考えられる。しかし、受験者は検定試験への積極的なチャレンジ、上位級へのステップアップを目指す生徒が増えている。	検定への受検者数・合格者数とも昨年度を下回っている。就職とも関連づけ意識を高めたらどうだろうか。
	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げることができる。	4:ほとんどの生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができた。 2:情報交換に終わった。 1:適切な進路支援はできなかった。	4	・卒業生個々の生徒については、教員側からの働きかけは実施することができたが、進路先決定への成果は十分なものではなかった。支援の内容は例年と変わらないものであったが、受け手側の側面にも変化が見られるようになった。教員の行う指導がストレスや重荷になると感じる生徒が数名おり、この生徒たちは卒業後ハローワークへ行って就職活動をするということであった。	上級学校等への進路実現については定時制としては目を見張るものがある。自己就職という手段も時代や生徒の状況を考慮するとやむを得ないのではないかと。	
特別活動	○生徒会における自主的活動および生徒間の助け合い支え合いの推進	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会の4つの生徒会活動において、生徒自身の自己工夫を促し、生徒会役員のみならず全生徒を主体的に活動させるとともに失敗を恐れずに何かをしてみようという意識を持たせる。	4:すべての行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協力的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協的に活動させることができなかった。	3	・生徒自身による生徒会活動という観点においては、前期についてはその指導性と実行力が乏しく生徒からの批判も多かったが、生徒会役員退任後の後期については、実践力と指導力を発揮し各種の企画や行事について充実感を得たと思われる。集団行動や対人関係が得意な生徒も、昨年度よりは参加率も上がったが、今後は生徒会役員生徒の意識高揚だけではなく、生徒全体がより積極的に生徒会活動に関わればと願っている。	本校の生徒達の間に弱者に對する心配りが見られたり、いじめも無かったりということからも、生徒会が望ましい人間関係を築くために機能しているが推察する。新生徒会役員を中心に生徒全員が主体的に参加する活動が進められることを望む。
業務改善	組織的な取組	・業務が担当者への負担となること無く、全職員が共有してある。	公務に対して 4:業務分担を掌握し、自分の仕事は勿論、担当以外の業務も積極的に協力してあった。 3:業務分担を掌握し、自分の仕事については、ほぼ問題なく対処することはできた。 2:自分が担当する業務について、十分な対応ができていた。 1:自分の担当業務に落ち度が多く、いつも周囲に迷惑をかけた。	3	・学校行事や総合的な学習の度に全員が参加するように各自が心がけていた。また、それぞれの業務において、個々のこれまでの教師生活で培った能力と特性が生徒指導や進路指導、特別な配慮を要する生徒の指導、資格取得分野で活用できたと感じる。ただ、参加するだけでなく、企画や準備の段階でもう一歩踏み込んだ協力ができ業務を共有し合えば、さらに進捗意識を高めることが可能ではないかと感じる。	情報を共有することで、業務効率の向上が図れるのでは。個々のPOは勿論、共有のサーバーでも必要な情報を担当者以外が探し出すのが困難では業務効率が低下する。情報を整理してストックしたり、情報に自在にアクセスできる体制があれば、ロスを防げるのでは。
	業務の精選	・業務のbuild & scrapを見直し、質の向上と、改善余地がない、見直す。	必要な業務の改善が 4:各学期1回以上、計4回以上あった。 3:各学期1回計3回あった。 2:年間2回あった。 1:年間1回しかなかった。	4	・先生方の意見や発案により、今年度新たに「個別的教育支援計画」「FM補聴システム」「配慮を必要とする生徒の研修会及び内規の附則改正」「コーディネーターによる言語聴覚指導」「新あったが給食」「校外模試の全日との合同実施」「警報発令時の対応マニュアル」「修学旅行手続きの簡素化」を実施・導入でき、本校が抱えてきた業務改善を進めることができたことは大変ありがたそう。	時代や生徒のニーズにあった新しい取組を積極的に行われている印象を受けた。抱える問題も多く大変だと思うが、生徒のために頑張ってください。
	整理整頓	職員室並びに過去の資料を整理し、業務の効率を上げると同時に、気持ち良い環境で業務に取り組む。	職員室の各自上・棚・ロッカー及びサーバーのファイル内を整理する。 4:学期1回以上整理整頓をする。 3:年間2回整理整頓をした。 2:年間1回しか出来なかった 1:1回も出来なかった	3	・長期休業等を使って個人的に気がついた者が掃除・片付けを行ったが、教員全員でまとまった大掃除をするには至らなかった。年度末に向けて各自の机上や課のロッカー整理を進めた。人事異動等に併い担当が代わった分掌等において、資料やサーバーの整理が進みつつある。業務の効率を上げるため、また、引き継ぎをスムーズに行うためにも是非進めていきたい。	物理的環境を整えることで、業務のスムーズな運営にも繋がると思われる。

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
学習指導	<p>[成果]①能力差のある生徒達に対して個別に対応したり、わかる授業の展開や単位修得のための配慮がなされた。 ②公開授業では、中学校長、中学生、他校の高校生、定時制高校教諭・教頭、生徒の恩師等、様々な方が例年以上に来校され、授業を行う本校教員にとっても良い刺激となった。</p> <p>[課題]①授業でつまずいて定時に来るようになった生徒も多い実情を考慮し、“理解しやすい授業”“わかる授業”をさらに追求していく必要がある。 ②基本的な社会性を養う手段としての学力を底上げするために、様々な立場の方に授業を開放し意見をいただける機会を確保する必要がある。</p>
生徒指導	<p>[成果]①教務・担任との連携により保護者への「文書連絡システム」が機能し、欠課時数が直接の原因となって留年する生徒が一人もいなかった。 ②配慮や支援が必要な生徒への様々な取組と教員間の研修を実現できた。</p> <p>[課題]①欠出席に関する生徒達の意識改革を図っていく必要がある。 ②様々な入学動機・生活歴・家庭環境・学習レベル・進路希望・支援すべき事項をもつ生徒に対し、引き続き生徒一人ひとりに応じたきめ細かな対応を進めていくと同時に、問題行動に発展させない指導を継続していかなければならない。</p>
進路指導	<p>[成果]①検定合格率を上昇させると同時に、既に取得している資格でも上位級へのステップアップを目指す者も多数いた。 ②生徒の実態や社会の厳しい就職実情という逆風の中、充実した進学指導・就職指導が行われ進学・就職先も決定した。</p> <p>[課題]①社会の一構成員として就職することの意義と大切さを悟らせる動きかけを推進していきたい。 ②職場体験を充実させ、生徒一人ひとりの思いが達成できるように心掛けたい。</p>
特別活動	<p>[成果]学校行事や生徒会活動(部活動)が生徒や教員の間で共通の目的や連帯感を養ったり、自己有用感や達成感が得られる有効的な手段や機会となった。「宇部中央定時に入学して良かった」と評価する生徒が非常に多い要因に特別活動の充実が挙げられる。</p> <p>[課題]新生徒会メンバーによる指導力と実行力により、円滑な行事運営と望ましい人間関係の構築が求められる。</p>
業務改善	<p>[成果]①学校行事に全ての教員が何らかの形で関与できた。 ②本校が抱えていた諸問題に対して様々な業務改善と新規取組が成された。 ③担当者のみしか内容や所在も分からなかったデータの整理が進んだ。</p> <p>[課題]①評価基準が仕事の姿勢に対する抽象的なものになっているため、本当に改善に繋がったのかどうか不明瞭な項目が多い。来年度の学校目標を立てる際に考慮していく必要がある。 ②業務のビルド&スクラップや情報の共有化を進め、業務効率の向上を図っていかなければならない。</p>

7 次年度への改善策	
学習指導	<p>① 授業でのつまずきが怠学によるものなのか、障害等に起因するものであるのかについて一人ひとりについて精査し、授業の形態や成績の算出等についても配慮していく。</p> <p>② 若者の社会的自立を支援する観点から“わかる授業”を展開し学力の向上を目指す。授業参観や公開授業、教員研修を積極的に実施し、教員個々の資質向上と見識の拡大を図っていく。</p>
生徒指導	<p>① 生徒の生活の中心が「学校」となるよう授業、行事を改善していく。</p> <p>② 保護者との連携や相談をより細やかに進めていく。</p> <p>③ 配慮や支援を必要とする生徒については、それが教員の一方的支援にならないように本人の意見や気持ちを確認し、教職員の研究も継続する。</p>
進路指導	<p>① 卒業年度生における進路指導について、早期から個々に応じた支援を進めていく。</p> <p>② 卒業年度までに社会に出るための意識を醸成していくために、資格取得や職場体験の奨励をする。</p>
特別活動	<p>① 生徒会役員から各学年への連絡を密にさせ、様々な活動において役員以外の生徒も気軽に協力できる雰囲気づくりを図る。</p>
業務改善	<p>① 次年度の学校目標作成の際に、各評価領域において具体的かつ数値的な評価基準を設定するように徹底する。</p> <p>② 情報の共有化と相互活用を進めるため、定時制共有ホルダー内の整理を進める。</p>